

公益社団法人日本放射線技術学会 北海道支部学術大会 第74回春季大会 日程表

4月21日(土) 1日目

会場 時間	第一会場 <1階> (講堂)	第二会場 <2階> (臨床第一講義室)	第三会場 <地下1階> (看護部研修室)
10:00		第10回ROCセミナー	
11:00			
12:00			※13時～15時の時間帯のみ、 春季大会参加登録者も受講可能
13:00	13:00-14:30 MRセミナー 『Gd造影剤 UP TO DATE』 90分	13:00-13:30 両正規 ROC 解析の基礎	13:00-14:00 整形外科セミナー 『疲労骨折について考える』 60分
14:00	14:30-15:00 倫理講習会 杉森 博行副支部長	13:30-14:30 デジタル画像セミナー 手計算による連続確信度法 ROC 曲線作成	14:00-15:00 医療情報セミナー 『医療情報分野における 研究のすゝめ』 60分
15:00	15:00-15:40 宿題報告 『核医学検査技術の変遷』 佐藤 順一 (旭川医科大学病院)		
16:00	15:40-16:10 表彰・来賓挨拶・会務報告 小笠原 克彦支部長		
	16:10-17:10 特別講演 『水晶体線量管理の今後』 坂本 肇 (山梨大学医学部附属病院)		
17:00	17:10-18:10 消化管&超音波セミナー 『ちょいワザさんを連れてきた ～検査技術のワンランクアップ～』 60分	17:10-18:10 アンギオセミナー 『経カテーテル的大動脈弁治療』 60分	17:10-18:10 乳房画像セミナー 『ステップアップ マンモグラフィ3』 60分
18:00			

4月22日(日) 2日目

会場 時間	第一会場 <1階> (講堂)	第二会場 <2階> (臨床第一講義室)	第三会場 <地下1階> (看護部研修室)
9:00	9:00-12:00		
10:00	<p>シンポジウム 『仕事から研究へ繋げる一步とは?』 座長 山口 隆義・中西 光広</p> <p>1. 研究で、日常検査の疑問を解決 2. いざ! 倫理審査委員会へ 3. せっかくだから国際学会発表! 4. 君が論文を書く理由 5. 大学院って、どんなところ? 6. 大学の教育者として思うところ 7. ディスカッション</p>		
11:00			
12:00	12:00-13:30	第10回ROCセミナー	12:00-13:00
13:00	<p>CTセミナー 『新人に聞いて欲しい! 見逃してはいけない…』 90分</p>		<p>計測防護セミナー 『桜島近郊のラドン濃度』 60分</p>
14:00			
15:00			

16:00

第74回春季大会プログラム

第10回ROCセミナー

特別講演

水晶体線量管理の今後

山梨大学医学部附属病院放射線部 坂本 肇

眼の水晶体は、外部から入ってきた光を網膜に映し出すレンズ機能の役割を有している。通常は無色透明であるが加齢などの原因により混濁を生じ、混濁の症状が進行すると白内障となる。水晶体は放射線への感受性の高い組織であり、放射線による白内障では水晶体の後部が濁る後囊下白内障と核のまわりが濁る皮質白内障がとくに多いとされている。放射線による白内障は確定的影響であり、従来よりしきい線量が8 Gyとされていたことから現行法令ではICRP publication 60での150 mSv/年（しきい線量を7.5 Gyとし7500 mSv/50年より算定）が放射線業務従事者の線量限度として定められている。しかし、2011年4月にICRPが発表した組織反応（確定的影響）に関する声明を受け、ICRP publication 118ではしきい線量が0.5 Gyと大幅に引き下げられ「線量限度：5年間平均20 mSv/年かつ単年で50 mSvを超えない」とされた。これらの勧告を受け、欧州やカナダなどは規制を取り入れる予定であり、本邦においても原子力規制庁の放射線審議会では我が国の制度に取り入れるための検討として「眼の水晶体の放射線防護検討部会」を設置し中間報告を取りまとめるなど法令改訂の動きが加速していることから、眼の水晶体に対する放射線防護を再認識する必要がある。

医療において眼の水晶体線量に注意が必要である分野は、患者の頭部CT検査、頭頸部IVR、また、従事者であるIVR術者、ERCPなど透視下の検査・治療を行う医師や医療スタッフなどである。一例として、当施設での血管系IVR時の術者頸部線量は1症例あたり平均0.15 mSvであり、現在の線量限度では150 mSv/0.15 mSvから術者1人あたりの年間許容症例数は1000件程度となり十分な検査件数を行うことが可能である。しかし、前述の提言である20 mSv/年が適用された場合には20 mSv/0.15 mSvから術者1人あたりの年間許容症例数は約133件となり、線量限度を超える術者が存在すると思われる。特に、最近のIVRは高い専門性が要求されることから限定された術者が多数の症例を行う傾向にあることから注意が必要となる。

本講演では、放射線による白内障のメカニズム、なぜ白内障のしきい値が変更になったのか、本邦における法令改訂の動向、診療での水晶体線量について、線量評価についての課題など水晶体線量管理の今後を分かりやすく解説する予定です。

研究倫理講習会

施設倫理委員会提出書類とその手続き例

副支部長 杉 森 博 行

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」は平成29年2月に一部改訂されたが、我々はあらゆる場合において、患者やボランティア等の研究協力者の生命・健康・プライバシーおよび尊厳を守り研究を推進していかなければならない。日本放射線技術学会総会大会・秋季大会では応募演題の倫理に関する質問に回答し、プログラム委員会倫理審査担当委員による審査が行われている。北海道支部においても第72回秋季大会より演題応募の際に本部演題募集に準拠した倫理に関する質問を設定し、本部倫理審査相談員講習会受講修了者による審査を開始した。北海道支部では会員へ研究倫理を広く理解いただくとともに積極的に研究を推進していただくために、今回は、施設倫理委員会提出書類とその手続きに関して例を挙げ、会員施設の倫理委員会に申請する際の参考となるよう情報を提供する。

シンポジウム抄録

北海道支部学術大会 第74回春季大会シンポジウム

『仕事から研究へ繋げる一歩とは？』

JSRTの基本的な活動は「研究」です。しかしながら、会員の多くは医療現場で働く診療放射線技師であり、そこでは放射線関連技術を実践し医療に貢献するのが役割となっています。また、常に新しい技術が医療現場に導入されるため、それらの知識や技術の習得も必要ですが、日常的には「研究」は業務とはなりません。ですが、放射線を扱う専門職として、線量の最適化や検査方法の見直し、より良い画質への追求など、臨床現場で考えるべき課題も多く、これらが「研究」の種となります。幸いにして、我々の身近には、このJSRTが存在し「研究」はすぐ手の届く所にあります。そこで、今回のシンポジウムでは、この「研究」を取り上げます。

座長：山口 隆義 学術企画委員長、中西 光広 MR 専門委員長

Program

1. 「研究で、日常検査の疑問を解決」

札幌医科大学附属病院	放射線部	今村 塁
北海道がんセンター	放射線診断部	齋藤 優一
遠軽厚生病院	放射線技術科	島崎 洋

2. 「いざ！倫理審査委員会へ」

手稲溪仁会病院	診療技術部	佐々木文博
---------	-------	-------

3. 「せっかくだから国際学会発表！」

北海道大学病院	放射線部	青池 拓哉
札幌心臓血管クリニック	放射線部	佐々木康二

4. 「君が論文を書く理由」

手稲溪仁会病院	診療技術部	板谷 春佑
---------	-------	-------

5. 「大学院って、どんなところ？」

札幌医科大学附属病院	放射線部	蝶野 大樹
------------	------	-------

6. 「大学の教育者として思うところ」

北海道大学大学院保健科学研究所		杉森 博行
-----------------	--	-------

7. ディスカッション

セミナー開催案内

デジタル画像セミナー

(デジタル画像専門委員会)

第74回春季大会デジタル画像セミナーでは、併催するROCセミナーのプログラムの一部を取り上げます。学会プログラムとして開催いたしますので、学会参加者は、ROCセミナーの受講申込みをしていなくても自由に参加可能です。ROC解析に興味のある皆様には、是非ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日 時：平成30年4月21日(土曜日) 13:30~15:00

場 所：第二会場(臨床第一講義室)2階

内 容：手計算による連続確信度法ROC曲線作成(演習)
LROC/FROC解析と観察者実験計画法(講義)

乳房画像セミナー

(乳房画像専門委員会)

当専門委員会では、大変狭い臨床領域ながらも、報道をはじめ、話題の多い乳房画像についての情報交流の場を繋げております。

春季大会では、テーマを「ステップアップ マンモグラフィ3」とし、昨年度実施したステレオガイド下吸引式乳房組織生検のアンケート調査における報告をおこない、実施施設間だけでなく、依頼施設を含めた情報交流の場とします。また、撮影された画像からのポジショニング評価を専門委員の講演からエア体験いただき、会員の皆さんが各施設で実践、指導いただくきっかけの場としたいと考えています。

いずれも、当専門委員会での継続課題ですが、研究活動をされている学生さんから、臨床現場で実際に検査されている方々まで、ぜひご参加ください。

日 時：平成30年4月21日(土曜日) 17:10~18:10

場 所：第三会場(看護部研修室)地下1階

テーマ：「ステップアップ マンモグラフィ3」

座 長：阿部 裕子(KKR札幌医療センター)

演題① 北海道におけるステレオガイド下吸引式乳房組織生検 2017年度アンケート調査

演 者：杉本 晴美(札幌医科大学附属病院)

演題② マンモグラフィからみるポジショニング評価

演 者：砂金 尚枝(北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院)

瀬野尾勤子(北海道対がん協会 旭川がん検診センター)

アンギオセミナー

(アンギオ専門委員会)

前回までのセミナーでは、頭頸部領域、腹部領域など「領域」を対象としてどのような検査・治療が行われているかをお話ししてきました。今回のセミナーでは「経カテーテル的大動脈治療 (TAVI/TAVR)」と一つの治療法を対象をしぼってお話ししていきたいと思います。

経カテーテル的大動脈弁治療は2013年より日本国内で保険償還された重症大動脈弁狭窄症 (AS) に対する新しい治療法です。しかし、この治療法は AS の患者全員が可能なわけではなく、慎重に適応や治療方針を決定しなければならないため、医師をはじめとして我々メディカルスタッフを含めた「ハートチーム」でカンファレンスを行うことが求められるようになっていきます。

本セミナーでは、経カテーテル的大動脈弁治療とはどのような治療法なのか、また放射線技師はハートチームにどのようにかかわっているのかを、当院での経験をもとにお話ししたいと思います。普段血管撮影に携わっていない方や経カテーテル的大動脈弁治療を行っていない施設方にも伝えられるような内容にしたいと考えておりますので、お気軽に多数の参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日 (土曜日) 17:10~18:10

場 所：第二会場 (臨床第一講義室) 2 階

内 容：「経カテーテル的大動脈弁治療」

司 会：工藤 環 (札幌心臓血管クリニック)

演 者：須藤 洋平 (札幌医科大学附属病院)

消化管&超音波セミナー

(消化管&超音波専門委員会)

今回のテーマは『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』としました。

春と言えばフレッシュャーズがたくさん職場に入ってきますとともに業務の配置換え等変化の時となります。そこで今回のセミナーは、消化管造影・超音波ともに『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』と題してセミナーを行います。

一人で検査ができるようになったばかりの初心者と指導できる技師は何が違うのでしょうか？指導者は知識と経験に裏打ちされたちょっとしたテクニックを持っています。それを駆使することで、あまり条件の良くないタフな患者さん (受診者) に対し最大限のパフォーマンスを発揮できるのです。今回は日常検査におけるちょっとしたテクニックをぜひ学んでいただきたいと思います。

みなさんの参加をお待ちしております！

日 時：平成 30 年 4 月 21 日 (土曜日)

場 所：第一会場 (講堂) 1 階

テーマ：『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』

座 長：島崎 洋 (JA 北海道厚生連遠軽厚生病院)

演題① 「胃 X 線検診編」 演者：荒井 雅昭 (北海道対がん協会 札幌検診センター)

演題② 「腹部超音波編」 演者：北口 一也 (JA 北海道厚生連札幌厚生病院)

CT セミナー

(CT 専門委員会)

現在、CT 検査では日常、緊急検査ともに臨床診療に欠かせないモダリティとなっている。業務拡大により読影補助への参画も望まれており、特に救急診療時は放射線技師が画像診断の一角を担わなければならない。CT セミナーでは、「新人に聞いてほしい！見逃してはいけない…」をテーマに挙げ、日常検査および救急検査において、見逃してはいけない所見、なぜ見逃してはいけないのか、予期しなかった所見を発見したときの対応などわかりやすく解説し、理解を深めていただきたいと思います。多数のご参加お待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 22 日(日曜日) 12:00～13:30

場 所：第一会場（講堂）1 階

テーマ：「新人に聞いてほしい！見逃してはいけない…」

座 長：高林 健一（北海道消化器科病院）、津元 崇弘（札幌厚生病院）

演 者：①頭頸部領域 山口 仰（北海道大学病院）

②胸部領域 小倉 圭史（札幌医科大学附属病院）

③腹部領域 箱石 卓（ジェイマックスシステム）

MR セミナー

(MR 専門委員会)

昨年末ガドリニウム造影剤添付文書『使用上の注意』の改訂が厚生労働省より通知され、ガドリニウム造影剤の潜在的なリスクに対して注目が集まっている。また平成 25 年より第 2 世代のガドリニウム造影剤が本邦で販売開始され、その有用性や従来製品との差について多数の報告がされてきている。本セミナーでは「Gd 造影剤 UP DATE」をテーマとして、Gd 造影剤の安全性の基礎と最新知見、第 2 世代 Gd 造影剤の臨床的有用性について文献的考察を含めて解説する。

MR 初心者の方にはわかりやすく、ベテランの方には復習と知識のアップデートとなる内容にしたいと考えておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 13:00～14:30

場 所：第一会場（講堂）1 階

テーマ：「Gd 造影剤 UP DATE」

座 長：中西 光広（札幌医科大学附属病院）、石坂 欣也（北海道大学病院）

演 者：①Gd 造影剤安全性の基礎から最新知見 畠山 遼兵（市立函館病院）

②第 2 世代 Gd 造影剤の臨床応用 福田 泰之（市立旭川病院）

医療情報セミナー

(医療情報専門委員会)

今回の医療情報セミナーでは、医療情報分野で研究を始める際のワンポイントと課題について取り扱います。新しい装置を導入したり、新しい検査法を取り入れて研究を行う際、物理評価・視覚評価といった評価法は概ね確立していると思います。しかし、医療情報の分野はどうでしょう？新しいシステムを導入したり、新しい情報を取り入れて研究を行おうとしても、評価方法がわからなかったり、確立した手法がないため、どうやって研究を始めれば良いかわからないかもしれません。

本セミナーでは、初心者の方や医療情報の分野に興味がある方を対象として、医療情報分野での研究の始め方、どのようにデータを収集すればよいか、医療情報システムから得ることのできるデータや仕組みを、幾つかの国内・国外の学会に投稿した実例を用いてわかりやすく説明します。委員一同、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 14:00～15:00

場 所：第三会場（看護部研修室）地下 1 階

テーマ：「医療情報分野における研究のすゝめ」

司 会：谷川 琢海（北海道科学大学）

演 者：福田 晋久（北海道医療センター）

谷川原綾子（北海道科学大学）

整形外科セミナー

(整形外科専門委員会)

「疲労骨折」という言葉は、だれしも一度は聞いたことがあるかと思います。明らかな外傷機転がなく、患者様本人にしてみれば突然痛みを感じることも少なくありません。

これまでの整形外科セミナーでは、受傷機序が比較的是っきりしているものにフォーカスしてきましたが、これですべてをカバーできるわけではありません。今回の整形外科セミナーでは、このわかっているようであまりわかっていない「疲労骨折」にスポットを当て、概要編として、①病態編、②ケース編（下腿・足根骨・中足骨を中心に）の 2 部構成で考えてみたいと思います。

皆様と活発な議論ができればと考えております。多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 13:00～14:00

場 所：第三会場（看護部研修室）地下 1 階

テーマ：「疲労骨折について考える」

座 長：谷 祐児（旭川医科大学）

演 者：①病態編

未 定（整形外科専門委員会）

②ケース編（下腿・足根骨・中足骨を中心に）

未 定（整形外科専門委員会）

計測防護セミナー

(計測防護専門委員会)

私達が一般の人へ向けて放射線について話すとき、身の周りの放射線をよく例に挙げます。特に、ラドン・トロンやカリウム 40 などの自然放射線からの被ばくについて、解説をしたりされているのではないのでしょうか。しかし、私達自身、このような自然放射線について学ぶ機会は、余りなかったのではないのでしょうか。本セミナーでは、専門の先生からラドンについて日本国内での現状のお話を伺いつつ、皆さんと一緒に学びたいと考えています。希少な機会ですので、放射線や被ばくについて説明をする機会のある方など、是非ご参加頂ければと思います。

【講演内容】

ラドン濃度を連続して計測し桜島近郊におけるラドンの日変動や季節変動を明らかにした。その屋外ラドン濃度は国内や国外の平均ラドン濃度よりも僅かに高い結果が得られた。高濃度のラドンを頻回に記録し、桜島の火山活動との関係について解析を行った結果、噴火回数間に統計的に有意な相関関係が認められた ($P < 0.05$)。

日 時：平成 30 年 4 月 22 日(日曜日) 12:00~13:00

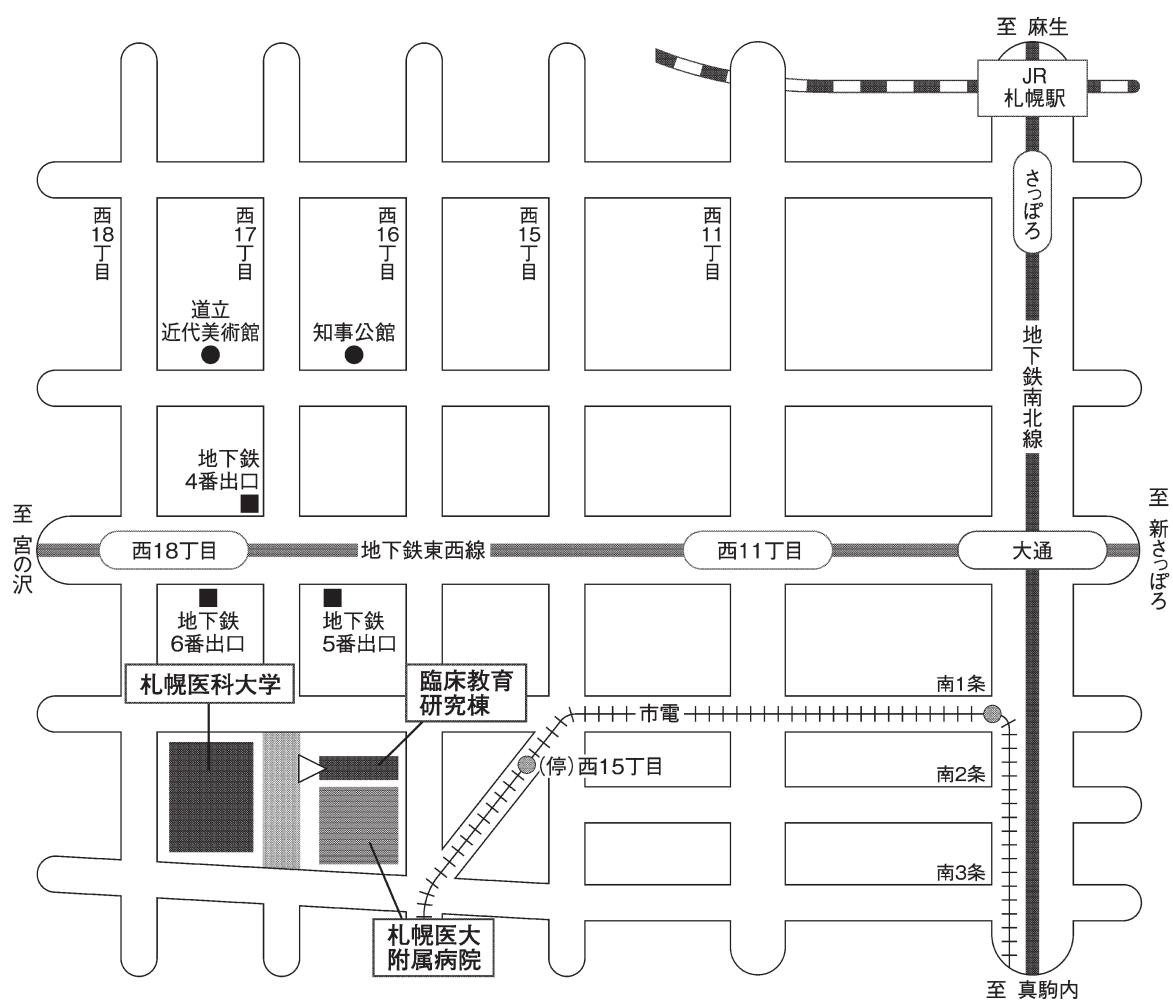
場 所：第三会場(看護部研修室)地下1階

テーマ：「桜島近郊のラドン濃度」

座 長：森 泰成 (JCHO 北海道病院 放射線部)

演 者：樋口 健太 (日本医療大学 保健医療学部 診療放射線学科)

交通アクセス



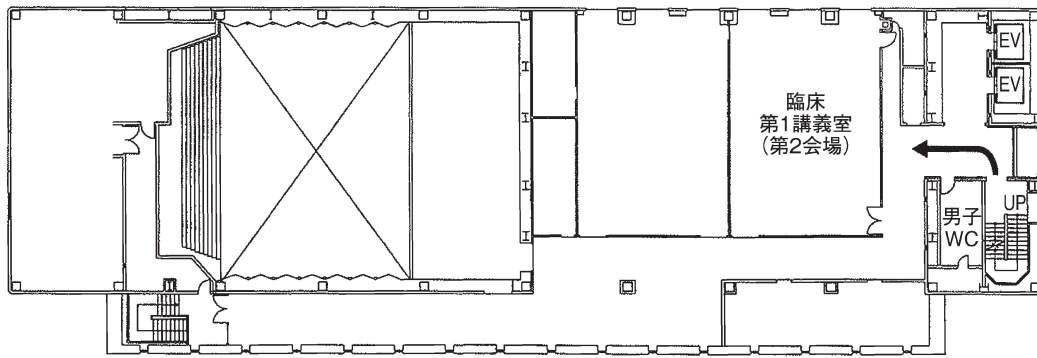
タクシー：JR 札幌駅から乗車 10 分

地下鉄：南北線「さっぽろ」駅（JR 札幌駅直結）から「真駒内」行に乗車、「大通」駅で東西線「宮の沢」行に乗換え「西 18 丁目」駅で下車、徒歩 5 分

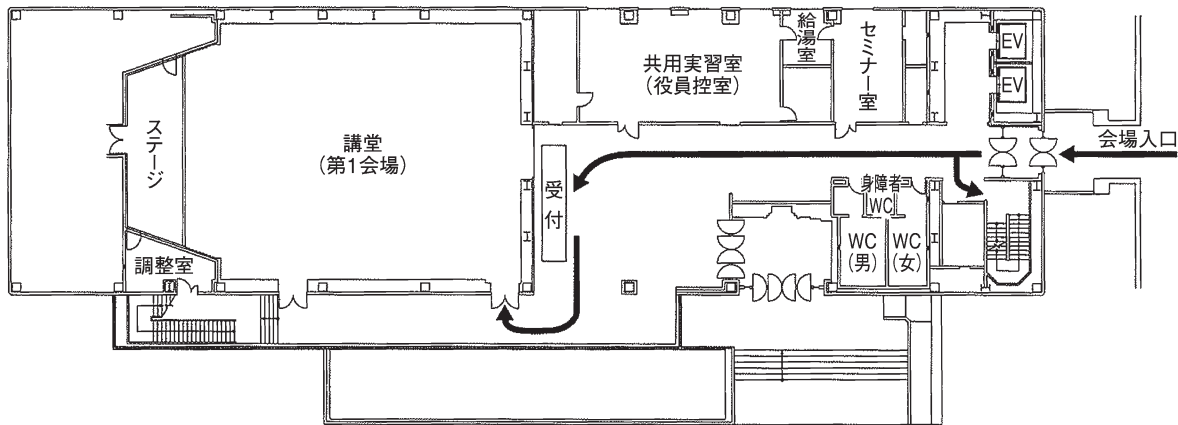
お願い

札幌医大病院の駐車場は、患者様のお見舞い専用になっています。
学会出席者の方々のお車でのお越しはご遠慮ください。

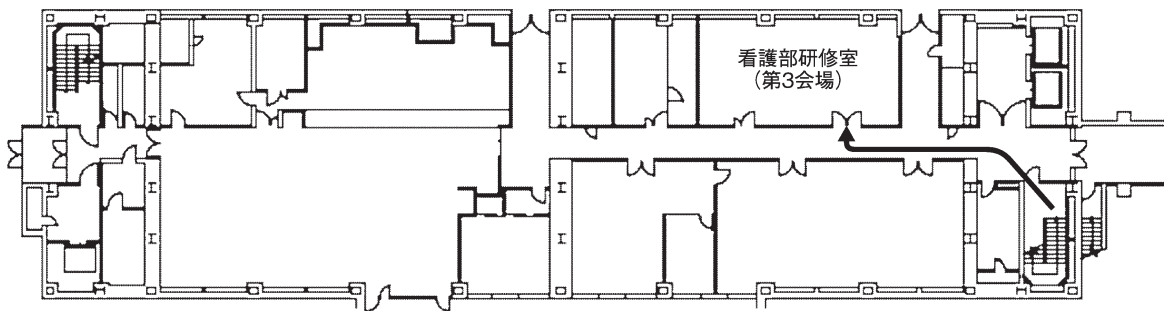
会場案内図



(2階平面図)



(1階平面図)



(地下1階平面図)